

東日本大震災 宮城支部を訪ねて
落合 真也

まず初めに、東日本大震災で被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。

宮城に行く前には、テレビや新聞でしか震災の状況を知ることができませんでした。今回このような機会を得て、自分ができることを小さいことでもいいから何かしたいという気持ちでいっぱいでした。

宮城支部の村上支部長にお会いするために、秦師範並びに分支部長の方々、西先生、谷君、私の7名で半日かけて交代しながら向かいました。

行くまでの道はとても遠く、大変でしたが『宮城に行きたい!』という気持ちでいっぱいでした。

そして、到着して村上支部長に出迎えていただき、震災の色々な話を聞きました。又、案内してもらった現場を見たとき只々啞然としました。

呆然と立ち尽くし、目の前の光景が嘘であってほしいと思いました。

しかし…これが現実。

震災が起きてから半年以上経った今も、陸地に乗り上げられた船が何十隻もあり、大破した車や、すべてのドアが無い建物や、津波で流されたあとの跡地が広がってほんとうに驚きました。

今はボランティア活動などでがれきの撤去が少しずつ進み、いくらかましにはなっているようでしたが、震災の爪痕はまだまだ残っている現状でした。

私たちにできることは、まず継続して募金活動をしてゆくことだと思います。

又、テレビでも言っていましたが、まず震災のあったところを訪ねて、その光景を見てほしいということでした。

同じ日本という国に住む、同じ日本人として一度見なければいけない! みんなにも見てほしいと私も思いました。

見て学ぶことがきっとある!

そして一生忘れてはならないこの日のことを!

又、私たちがこれからもずっと向き合っていかなければならない現実!

今回の宮城行きで様々なことを考えさせられました。

この機会を与えてくださった秦師範に感謝し、宮城支部は元より東北地方の被災された多くの方に一日も早く平和な日常が戻ってくることを祈ります。

そして、私はこれからも少しずつでも募金活動を続けてゆこうと決意しました。